

M I Z U W A K A

瑞若会会報
Vol.46

- 特集 >>> 思い出のキャンパス風景
- がんばるOB >>> 同窓生11人の近況報告
- Close-up Laboratory >>> 教授が語る研究への取り組み

覚えてますか?・・・この場所

開学50年を過ぎ、その間に愛知工業大学のキャンパスも進化を遂げています。1966年に移転した八草キャンパスには新しい建物ができる一方で、移転間もない頃の建造物も残されています。1枚の写真から学生時代へ思いを馳せてみませんか。

変わりゆくキャンパス

10号館(左)の隣りに2010年秋に完成した1号館(右)。以前の1号館と比べると建物も7階建てになり、キャンパスの風景の違いがわかります。

2010年4月には自由ヶ丘キャンパスも完成しました。

後ろの建物が見える低層の旧1号館



ガラス張りで明るい雰囲気の1号館

地下鉄駅から近く利便性抜群の自由ヶ丘キャンパス



くつろぎのスペースもある、広々としたロビー

表紙の写真はココの壁でした! わかりましたか?



1966年竣工の旧1号館は、八草キャンパスで最も古い建物の1つ

あの風景



野球部などの合宿寮



1年生が入る学生寮1号棟

北川 一敬准教授 (H2M)

洗面所は今年からお湯も出るようになったと聞きましたが、昔は水しか出なくて寒い日はつらかったですね。



薄井 龍矩さん (機械学科4年)

部屋は十分な広さでした。良かったのは様々な出身地や他学科の友人ができたこと。今でも交流があります。



下宿生を支える学生寮

キャンパスの南の高台にある「学生寮」は、八草キャンパスオープン時から遠方からの学生たちを暖かく迎えてくれました。1号棟は部屋も2人部屋から1人部屋になり、ネットや空調設備も整った快適な環境です。女子用の部屋もできました。



寮監の水谷さんご夫妻

今は携帯電話ですが、昔は廊下にあった公衆電話に列ができていました。他の設備面でも少しずつ快適になっていますよ。

備え付けの家具があり、居住性もアップした個室

寮生たちのオアシスでもある食堂。授業がなければ朝、昼、晩と利用



寮監さんたちの掃除が行き届き、40年前の風呂場と思えないほどきれい

バラエティ豊かなランチスポット

八草キャンパスには、「愛和食堂」や「マイティハウス」など昔からおなじみの食堂や、「カフェ・ド・クリエ」「スガキヤ」「すき家」などの専門店があります。

自由ヶ丘キャンパスの「カフェ・ド・ソレイユ」は、テラス席もあるカフェ。一般の人も気軽に利用できます。

1号館1階にある「カフェ・ド・クリエ」



麺類が人気の「愛和食堂」



おしゃれな雰囲気の「カフェ・ド・ソレイユ」

◆取り壊された食堂

およそ40年にわたり学生たちに愛用されてきた「カフェ&レスト セントラル」は、建て替えのために仮店舗に移動し、2013年夏に解体されました。

佐藤 雄一さん (機械学科4年)

セントラルをよく利用します。安くてボリュームがあります。定食風のAITランチが人気のメニューです。



解体される前の「カフェ&レスト セントラル」

愛和会館にある床屋さん

1968年から営業する、愛和会館1階にある床屋さん。卒業してからも、土曜日にわざわざ遠方から通って来る人もいます。

やない 床屋の 矢内 正恵さん

運動部の人たちの面倒もよくみてましたね。学内で開かれる駅伝大会のきっかけづくりもしたんですよ。



物理学担当だった岡田静雄元教授も常連客の一人



スキーで培ったチャレンジ精神で新しい仕事にも挑む

藤田 康夫さん (52R)
株式会社シーテック 理事関東支社長



元に配属されたので、知っている人に会うのは恥ずかしいなあという思いもありましたが、後に

現場を離れて何か問題があっても現場経験があるからこそ解決できたことも多く、今では貴重な体験だったと思っています」。

有線業務からマイクロ波など無線を扱う部署に移り、設計などに関わっていた頃、CATV(ケーブルテレビ)の時代が訪れようとしていました。会社が事業に進出するにあたり、研修でアメリカへ派遣された藤田さん。戻ると取引先の要望に応じて、CATV開局のためのセンター局の設計や映像機器の準備に至るまで責任者として関わること。「開局日が動かせないので、スケジュールをやりくりして何とか開局にこぎつけるというのが大変でしたね」。

設計施工などのハードに関わった経験を生かし、局の会社設立や免許取得、番組編成といったソフト部分のコンサルティングにも携わります。2005年4月に開局したCCNet豊川局では、小学校の校区別に個別の映像や情報を提供する、全国初の「校区別

放送」も企画。家でお年寄りが孫の運動会の様子などを生中継で見ることができるという画期的なアイデアでした。「CATVは防犯や防災面でも地域に貢献できるという思いでやっていました」。

心にとめているキーワード

学生時代から「自ら飛び込め」をモットーに、「自分1人で解決できると思うな」という気持ちで新しいことにチャレンジしてきた藤田さん。あきらめない気持ちを胸に、困難な仕事にも立ち向かってきました。支社長という立場になった今、部下にも「自分の可能性を持って」とアドバイスしています。

さらに自らの経験から「人生にはプラスワンが大事」と言う藤田さん。「仕事以外に何か持っていれば、人間関係も広がり、直接的ではないにしろ、きっとどこかで仕事にもプラスになるとしています」。実際に、読んでいた本がきっかけで取引先の人と距離が縮まった経験もあると言います。

藤田さんが常に心にとめていること。それは、「礼節を重んじる」こと。「スキー部で培ったことですが、仕事でも肝に命じています」。

市役所職員時代の経験を活かして地域貢献に力を注ぐ

さいとう たかし
西塔 隆さん (49E)
トコネットワーク代表

技術を生かしつつ社会に貢献

学生時代、「技術と社会を結ぶ」という教授の思いを身近に聞いていた西塔さん。学んだ技術を生かして社会に貢献できるのではという思いもあり、地元の豊田市役所に事務職として入りました。

「最初の配属は視聴覚ライブラリーです。時代はフィルムからビデオへという時期だったので、保存資料のビデオ化や新しい装置の導入を進めました」。

その後、廃線になった線路を利用したレールバイクの実現に力を注いだり、知的障がい者の宿泊体験を企画するなど、様々な部署で新しい仕事をしてきました。

森林課配属時代には、愛工大の一柳教授が豊田市でマイクログリッドの実験を行うきっかけを作ったとか。「足助事務所にいた頃、すぐに停電をしていたので、災害時の電源確保の必要性を一柳先生に話したところ、実験のテーマとかみ合って実現したんです」。

積み木で子どもたちに夢を与える

市役所を定年後、トコ積み木を使ったワークショップなどを展開するトコネットワークの代表を務める西塔さん。在職中に行ったイベントで、子どもたちが積み木で楽しそうに遊ぶのを見てから積み木の可能性を感じ、興味を持っていたと言います。

偶然にも、積み木を作りたいという理科の先生に出会ったことがきっかけで、トコ積み木が誕生します。「先

生の思いに賛同して個人でプロジェクトを立ち上げたんです。ちょうど間伐材の活用について考えていたこともあり、うまく材料として活かせるかなという思いもありました」。

西塔さんは、市役所の様々な部署で仕事をしてきた中で培った人脈から、資材提供者、木工のプロ、ボランティア団体、保育施設、販売元などに声をかけ、トコ積み木の企画・デザインを手がける先生とともに中心になって、トコ積み木の実現化に奔走しました。

「積み木の形は7種類ですが、組み合わせでできる形は無限と言ってもいいほど、広がりがあります」。今後もトコ積み木のように子どもの感性を育み、夢を与えるようなものや機会を提供していきたいと言います。



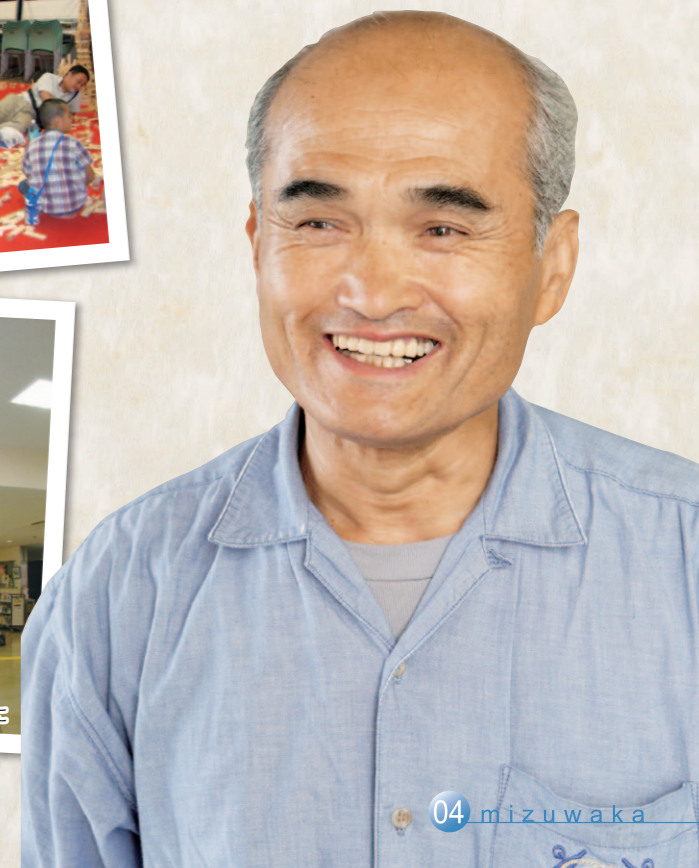
地域活性化の手伝いをしたい

これから実現したいと思っているのは、自転車にまつわる企画とか。「このあたりにはサイクリングで来る人々も多いので、他の地域から訪れた人々と地元の商店や施設を結びつけて地域が活性化するような催しができないかと思っているんです」。

自らも自転車は40年来の趣味。自転車をかついで電車や飛行機に乗り、あちらこちらへ旅をしてきた経験から、地元でも鉄道会社に協力してもらい、自転車を乗せることができればと考えているそうです。

様々な企画を実現するには一般の人と行政と一緒に進めることが大切だと語る西塔さん。「行政のOBということで、両方の立場で考えることができるので、橋渡しのお手伝いをできたらと思っています」。

●トコ積み木の紹介先
<http://skippa.sakura.ne.jp/toco/top.html>



同窓生の教師とともにごんばる

生川 孝彦(なるかわ たかひこ)さん 60M



▲勤務先の高等学校にて

私は卒業後すぐに三重県で教鞭を執り、今年で29年を迎えます。工業高校でも最近「ものづくり」が盛んで、技能検定取得の指導等に悪戦苦闘しております。

今年度は17年ぶりの異動があり、勤務先も4月から四日市工業高等学校、分掌も1年生の担任となり、久しぶりに緊張しました。以前から知っている先生が多く「ほっ」としましたが、それ以上に驚いたことは、愛工大の卒業生が9人(自分も含め)もいたことです。三重県では卒業後40名ほどの方が教職に就き、現在26名ほどの方ががんばっていると、瑞若会教職員支部の集まりで聞いたことを思い出しました。

企業に勤めてから教職に就いた方は、何方が何処にいるのかきちんと把握できず、困っているのが現状のようです。せっかく、瑞若会の中に教職員支部があるのですから、皆さん有効に利用いたしましょう。近況報告などで構わないと思います。気が向いたらメールでもしてください。(市川先生、勝手にすみません)

最後に愛知工業大学と瑞若会の益々のご発展をお祈りしております。

応化会の運営委員になって・・・

渡辺 慶乃(わたなべ よしの)さん H10C

応用化学科稲垣慎二先生の最終講義およびご退職記念懇親会を行いました。2013年2月22日の開催に向けて準備を行うため、応用化学科の幅広い年代の卒業生15名が運営委員に選ばれました。なぜ運営委員に選ばれたかという、私にもわかりません。「運営委員をお願いします」というメールが突然入ってきたのです。運が良かったと思うようにしています。

それからは定期的に集まり、会に向けての打ち合わせと懇親会を重ねていく度に、運営委員の皆さんと仲良くなり、経験豊富(?)な先輩方の話を聞いていると別世界の様で楽しかったです。稲垣先生の最終講義や懇親会が終了した後も集まっ

大学時代の専門とは別の世界へ

安永 尚弘(やすなが なおひろ)さん H17A

私は建築科を卒業しましたが、建築とは全く縁のない接骨院を今年の4月12日に開業し、日々治療に励んでおります。

大学時代は野球部に所属し、寮で4年間過ごしました。選手時代には自分自身、けがにより思うようにプレーできない時期もあり、その中で選手をサポートする側に興味を持ちました。

卒業後は柔道整復師、はり・灸師の国家資格を取得するため6年間専門学校に通い、接骨院で働きながら勉強させていただきました。この夏は地元の甲子園出



▲稲垣先生を囲んで運営委員のメンバーと(最前列の中央が本人)

ては楽しい時間を過ごしています。

肝心の、稲垣慎二先生の最終講義およびご退職記念懇親会ですが、たくさんの卒業生と在校生が集まり、皆様のご協力もあり無事終了しました。

応用化学科卒業生の皆さん、運営委員会に参加しませんか?楽しいですよ。独身男性もいるので、女子卒業生、大歓迎です。(笑)



▲開業した接骨院にて

場選手たちに通っていただき、充実感を味わうことができました。

今後も地域の方々やアスリートたちに信頼してもらえるような治療院を目指します。

仕事とサークル(AI・工房)を両立

水守 寛敏(みずもり ひろとし)さん H2B

卒業後、建築技術職として採用され、ゴミ処理プラントの建屋設計に従事しました。コンベヤなどの機器類や付帯するダクト・ケーブルが柱・梁などの構造体と複雑に挟まれて配置されるので、設計の段階から機器類等を含めた施工計画や工程計画の配慮が必要になります。さらに機器類はミリ単位で据え付けられるので、建屋の施工もそれに合わせた精度が要求されます。大型物件に恵まれ、技術屋としては幸運でした。

その後、10数年前からは水道管路(ダクトイル鉄管路)の配管設計に携わりました。開削困難区間が1kmを超える送水管更新工事において、さや管推進工法の計画策定を行い、ダクトイル鉄管を使用したさや管推進工法では日本最長(スパン長:1,017m)を実現しました。現在はダクトイル鉄管の普及のため各地の水道事業体を訪問し、技術広報活動を行っています。

仕事とは別に、愛工大のOBたちと「AI・工房」というものづくりサークルを2001年3月5日に結成しました。AIは、愛



▲建屋設計をしたゴミ処理プラント



▲「AI・工房」のメンバーと(右端が本人)

知工業大学「AICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY」の頭文字の一部をいただきました。サークル活動を通してメンバーのノウハウを統合し、社会に貢献できるものづくりを目指すことが目的です。

この活動では、釣り道具のアイデア提案からデザインコンペの作品応募まで行っています。過去に、「魚の生きしめ具」で特許を出願し、「魚の生きしめ具の刃」「釣用ウキ」で意匠登録を出願しました。「大阪駅北地区国際コンセプトコンペ」「丹波ツリーハウス設計競技21」などのデザインコンペにも応募しました。現在のところ、4名で活動しております。一度覗いてみたい方、ご興味のある方は、事務局 水守までご一報ください。

★連絡先(勤務先) h_mizumori@kurimoto.co.jp



▲さや管推進工法施工状況

仕事にやりがい、趣味でリフレッシュ

谷野 益教(たにのみつり)さん H4D



▲下水道課のメンバーと(2列目の左から6人目が本人)

卒業して約20年間、瀬戸市の土木行政に携わっています。中規模都市ということもあり、土木の特定の分野に特化することなく3~5年のサイクルで人事異動があり、道路、公園、上水道、都市計画などを経験して、現在は下水道の建設に関わる仕事をしています。

建設会社の現場監督と工事について打ち合わせを行い、目的物が完成するまで現場と書類を段階的に確認・検査するなど、必要とする品質と安全が確保できるよう監督業務を行うとともに、工事が円滑に進むよう地元調整・苦情対応といった業務も行っています。係長になってからは直接工事を担当していませんが、今までの経験をもとに若手監督職員を指導しながら、ともに完成に向けて汗を流しています。日々問題や苦情対応に追われて冷や汗を流すことが多々ありますが、目的物が完成したときの達成感と、地元住民の方に喜んでいただくことで、苦勞以上にやりがいを感じています。

休日はなるべく体を動かすように心がけています。週1回はジョギングしたり、登山やスキーを趣味とするなど、仕事以外で心身共にリフレッシュすることが、病気や昨今増えている心の病にかからないための予防薬と考え、楽しみながら仕事と両立する日々を送っています。



▲世界遺産の富士山を登山

愛工大と私

小塚 晃透(こづか てるゆき)さん 61E

卒業研究でパソコンに夢中になり、研究の面白さに惹かれました。名古屋工業技術試験所(現産業技術総合研究所)に就職し27年、研究を仕事としています。最近のテーマは「超音波・音響・振動」です。

2年前より愛工大の非常勤講師として週に一度、電気学科の「電気電子計測I・II」の授業を行っています。20数年前に授業を受けた講義室で授業を行うのは、大変懐かしく感無量です。まだ緊張の連続ですが、私のような卒業生が教壇に立たせていただけるのは、社会や現場のこ



とを後輩たちに教えるためと考えると、教科書の解説のみならず自分の研究上での体験談を紹介したり、最新の新聞記事を引用するなど、多様な観点からの授業を心掛けています。



▲グラスハーブを使った授業の様子
◀グラスハーブによるデモンストレーション

私の授業は選択科目で、毎回120~130名位の学生が出席します。多くの学生に受講してもらえるのはうれしい反面、少し騒がしく、目に余ると授業を中断して説教をすることも…。でも、私が学生のとき

も先生方に迷惑をかけていたのかなと思うと、あまり強く学生を叱りません。教育のプロである大学の先生と違い、素人の私ではうまく教えられないのかな、と悩んだりもします。改めて先生方を尊敬し、学生時代のご指導に感謝しております。

さて、近年若者の理科離れが問題になっています。私は科学技術に関する啓蒙活動として、科学館や学校などで「グラスハーブ」を題材とした実験教室を行っています。子どもたちに科学の面白さについて話をするのは、とても楽しいことです。

先日、大学の授業に「グラスハーブ」を持ち込み、音をマイクで拾い、パソコンで

周波数解析をするデモンストレーションをしました。実際の機器を目の前にして、学生は興味を持ち、身を乗り出して静かに話を聞いてくれました。デモにより具体的なイメージを持つことで理解が深まり、理解できれば興味を持って話を聞いてくれるようです。少しずつですが、学生が興味を持つような授業ができつつある気がしています。

現在の私があるのは愛工大のおかげです。後輩である学生たちに教えることで、少しでも恩返しができるれば良いと考えております。

公私ともに充実した日々

神取 健(かんどりけん)さん H11C

地元である愛知県西尾市の消防本部へ就職し、14年。火災現場での消火活動はもちろん、交通事故現場では救助資機材を駆使しての救助活動、水難事故があれば船に乗り、ウエットスーツを着てダイビングすることもあります。

体力勝負なイメージがありますが、消防にも様々な部署があり、予防業務では消防法や建築基準法など関係法令の知識が必要で、市内のあらゆる建物に検査や査察に行きます。また、時には保育園へ出



▲消防本部の同僚と一緒に(中央が本人)

モータとともに歩んで

河辺 英二(かわべえいじ)さん 45E

当時、インストルメントモータと自動制御装置を主力事業としていた多摩川精機(株)に採用となり、長野県の飯田工場勤務となりました。設計技術課サーボ係に配属され、防衛用航空機搭載用のサーボモータ等の設計や、民需用として小型のインダクションモータをはじめとした量産モータの設計をしました。

コンピュータの普及とともにHB(ハイブリッド)型のステップモータの設計を手がけ、磁ヘッド駆動用のアクチュエータとして使用され、ピーク時には月産40万台を生産、世界シェアNO.1となりました。現在、ハードディスクドライブの小型化にともないVCM、ボイスコイルモータへ移っています。アミューズメント分野では、パチンコ発射機用のギヤ付きシンクロナスマータやスロットマシンのリール駆動用のHB型のステップモータを設計・開発。これらは日本シェアの80%を占めています。

入社当初は機械加工技術がよくわからず苦労しましたが、入社後25年間、種々なモータを設計・開発してきました。世の中の技術は日々、進歩するので、技術者は常に勉強、自己研鑽が欠かせません。



▲恒例のスキーツアー

かけ、花火指導のため着ぐるみを着て寸劇を披露することもあります。救急業務では心肺蘇生や応急手当などの知識、技術も必要な職場でもあります。

趣味は、スノーボードやサーフィン。20代の頃は毎週ゲレンデや海へ出かけていました。今では毎年、市役所の仲間たちと、夏にはキャンプや川へBBQ、冬には雪山へバスツアーを企画して楽しんでいます。公私ともに仲間たちと充実した日々を過ごしています。



▼愛工大での講義の様子、多くの学生が受講

バブル崩壊後は会社も仕事不足となり、1992年に営業部門へ異動してから、愛知県の三河地域を新規開拓することに。従来から自動車を生産する設備機械用にモータやセンサーを納入していましたが、直接の取引はありませんでした。セールスエンジニアとして13年間、営業活動をした結果、トヨタ自動車をはじめトヨタグループとの直接取引が増え、1999年12月に岡崎市に多摩川精機販売(株)中部営業所を設立することになったのです。その後は、現在のハイブリット車の駆動用モータに欠かせないVRレゾルバなどの量産・納入へとつながっています。

2005年5月に営業から飯田工場へ異動となり、多摩川精機の商品を製造する多摩川精機直系の製造担当子会社である多摩川マイクロテック(株)へ。グローバルな

“祭り”やっています。

中川 達也(なかがわたつや)さん H15R

昨年は瑞若会創立50周年の集まりにも参加させていただき、ありがとうございました。卒業から約10年になりますが、毎年2回程度、“祭り”と称して集まり、ミニ同窓会を行っています。



▲“祭り”と称したミニ同窓会(左手前が本人)

“祭り”の話題も、20代のときのように興味や仕事で海外出張したときの話題から、30代になり結婚や子どもの話、最近購入した家や車の話、投資先の話へと幅広く変わってきました。今回は、課長に昇進したり、娘さんが産まれた卒研仲間たちをお祝いしながら、研究室の先生と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

ところで、愛工大もフェイスブックを始めたのですね。映画も完成したら、ぜひ見に行きたいです。愛工大および同窓会の益々のご活躍を期待しております。

競争に勝つためには製造力のアップ、強いものづくり力、現場力の向上が重要です。経営陣の一人として、トップダウンの自律的革新活動とボトムアップのQCサークル活動を通じて人材の育成、現場力の向上のため継続的改善活動を実施しています。

昨年は、友人の美頭さんからの要請で母校で講義をさせていただきました。電気工学科3年生130人の学生の皆さんが真剣に私の講義に耳を傾け、3時間の講義が終わっても多くの学生が残り、いろいろと質問してくれました。愛工大の学生は、向学心、やる気があって大変良いと感じました。これからは、グローバルで技術力のある人材が求められています。多摩川精機で、研究、開発してみませんか。愛工大の学生の皆さんの、若いエンジニアの技術力に期待しています。

OB 掲示板

学科や職場、地域ごとに行われている同窓会や活動状況などについてお伝えします。

小嶋先生を祝う会を開催しました!

電気学科同窓会では、2013年9月21日に「小嶋憲三先生 名誉教授受賞ならびに愛知工業大学退職記念 お祝い会」をレストラン リビエール(名古屋市内)にて開催しました。

小嶋研究室の卒業生やワンダフォーゲル部のOBなど、お世話になったOB・OG40名ほどがお祝いに駆けつけました。下は20代から上は小嶋先生と同年代まで幅広い年代が集まり、お祝いの言葉と乾杯の後は、小嶋先生が各席を回って昔話を花を咲かせたり、会場のいたるところで意気投合した先輩と後輩が年代の壁を超え親睦を深め合ったりと、明るくにぎやかな雰囲気になりました。

電気学科同窓会学年幹事 中野 寛之(H10E)

電気同窓会

恒例行事の懇親会開催

愛知県刈谷市を拠点としている近藤グループの愛工会は、約80名の愛工大OBが在籍している職場支部で、毎年2回懇親会を開催しています。2013年7月26日に刈谷市の藤田屋で開催された会には、瑞若会の事務局からも出席し、瑞若会と大学の状況も報告しました。建設関連の企業ですので多くが建築・土木の出身者ですが、年2回の懇親会は職場部署の枠を超えた情報交換の場となっています。ここ数年、経済状況の影響で新たな卒業生を迎えていませんでしたが、今後は本学からの新人をぜひ獲得したいという声が上がっていました。

瑞若会本部

近藤グループ 愛工職場支部

『信州』のみなさんと交流を

長野県内から進学したほとんどの卒業生は、故郷を愛し、卒業・就職を機に地元に戻り、大学で学んだことを活かし、それぞれ活躍しています。私自身も、厳しかった就職氷河期の中、県内の今の職場に決まり、現在まで学科で学んできたことを活かせる設計業務の仕事を続けてきています。奇遇にも、職場の部署内には、8歳上の学科の先輩OB、他部署にも6歳下の後輩OBがあり、お互いの学生時代を振り返ることもあります。今後、定着した活動を企画し、県内OBとの交流を深めていきたいと思ひます。

長野県支部 会計 矢原 陽子(H16A)

長野県支部

土木同窓会 アラ還、2回目の同窓会

2013年9月21日に名古屋駅前の安楽ホールに、工学部土木工学科昭和47年卒業生が集まり、恩師の森野名誉教授、木村教授、奥村教授をお迎えして2回目の同窓会を開催しました。

前回の1993年から20年ぶりの同窓会で、卒業して41年ぶりや20年ぶりに会う者もあり、風貌から誰かが判らない者もいました。出席者の近況等の自己紹介では、皆真剣に聞き入っていました。学生時代は真剣に講義を聞いていなかったのに吃驚しました。また、青春時代の話で盛り上がり時間の過ぎるのを早く感じた次第です。



これから社会基盤の整備が必要であり、特に東日本大震災復興、東京オリンピック、リニア中央新幹線、施設の管理・更新等々があり、我々が現役を卒業していくと世代交代が進み土木技術者の育成が重要な課題となります。そのときこそ大学の存在が大きくなっていくことでしょう。

今回の開催は、多くの者が古希の70才になる5年後に同窓会を開催することで閉会しました。忘れていた学生時代に戻った一日でした。

野々山 保男(47D)

応化会

応化会による「OB講演会と懇親会」

愛知工業大学の「応化会」は、2013年11月30日に、各方面でご活躍の応用化学科卒業生を招き、「OB講演会と懇親会」を本山キャンパスにおいて開催しました。

板倉廣一氏(55C・白石カルシウム株式会社常務取締役大阪支店長)の「中国子会社の立ち上げ話」に始まり、山田英介氏(46C・愛知工業大学応用化学科教授)から愛工大の古今断があり、応化会庶務の佐藤暢也氏(61C・イダ産業株式会社技術部長)からは会の活動が紹介されました。最後の懇親会では参加者同士が親交をあたため、なごやかなうちに閉会となりました。

瑞若会本部

AIT OPEN FORUM

2013年度のAITオープンフォーラムが6会場で開かれ、各講師により興味深い講話が行われました。

- 第102回 平成25年9月14日(土)金沢都ホテル
テーマ: 本学は全国の大学で最初に緊急地震速報を導入しました!
講師: 工学部都市環境学科 正木 和明 教授
- 第103回 平成25年9月21日(土)岐阜グランドホテル
テーマ: 眼力(メヂカラ)と日常生活
講師: 経営学部経営学科 石垣 尚男 教授
- 第104回 平成25年9月28日(土)岡山ロイヤルホテル
テーマ: これだけは知っておきたい放射能の『いろは』..... Pick up
講師: 基礎教育センター自然科学教室 森 昌弘 教授
- 第105回 平成25年10月5日(土)ホテルクラウンパレス浜松
テーマ: 近未来の生活・環境
講師: 工学部建築学科 建部 謙治 教授
- 第106回 平成25年10月26日(土)四日市都ホテル
テーマ: CSR「環境・食料問題への取り組み」～食べ物「モッタイナイ」をなくそう～
講師: 経営学部経営学科 石井 成美 教授
- 第107回 平成25年11月3日(日)ホテルブエナビスタ
テーマ: 人間中心設計への取り組み～使いにくいモノをなくそう～
講師: 情報科学部情報科学科 小林 正 教授
「長野県支部総会」同時開催!

これだけは知っておきたい放射能の『いろは』

講師: 森 昌弘教授 基礎教育センター自然科学教室



「私は、X線を中心的な研究手段として、X線の散乱・吸収・光電子分光研究を始め、原子炉での中性子散乱実験やガンマ線吸収の研究を行ってきた研究者で、その経験を通して、東北地方太平洋沖地震以前の法律に基づいて、『放射能のいろは』をわかりやすく解説します」との提言により、放射能と放射線の違いに始まり、事例紹介を交えて解説があり、受講者は熱心に聞き入っていました。

大学では、産官とも連携し、詳細なデータを取るなど
実用化に向けた研究も数多く行われています。
今回は3つの研究室の近況をお伝えします。

日本の製造業、とくに中小企業での 知財マネジメントの活用について

「技術経営」論と日本のモノづくり

技術と経営の両方の知識を学ぶ「技術経営」を専門分野とする後藤時政教授によれば、日本のモノづくりの市場が変化していると言います。「過去、安くいいものを提供することで市場を広げてきたが、市場がグローバル化してくると今までのやり方は通用しない。例えば、家電やパソコンなど、部品を組み合わせる製造する製品においては、最適な部品の選択と調達が重要であり、組み立てプロセスでは付加価値を得ることができない状況です」。設計から組み立てまで国内で行う日本のメーカーなどが、人件費などの面からも競争力が失われている一方で、同様の製品を扱う企業でも、アップルのように成功している例もあります。

「技術経営」を研究する中では、成功した企業の事例から「定石」を学ぶのも大切なことだと言います。

「知財マネジメント」が企業経営のカギ

そこでクローズアップされているのが、技術経営の中の「知財マネジメント」。「知財(知的財産)」とは、知的財産基本法によれば、「人間の創造的活動により生み出されるもの。事業活動に用いられる商品又は役務を表示するもの及び営業秘密その他の事業活動に有用な技術上又は営業上の情報」と定義されています。

「企業経営の視点でどのように知財を保護し、活用するかが重要になります。企業の知財マネジメントでは、自社技術の一部の領域をオープンにすることで自社製品の市場を形成しつつ、他社との独自性や差別化をはかるためには、クローズにする領域を持って利益を確保する必要があります」と後藤教授。

知財である特許出願の現状

知財の代表的なものとしては特許があります。「何でも特許を取るのではなく、自社技術の特許を取ることで技術を使いたい企業からロイヤリティを得る一方で、重要なノウハウはあえて特許化せず他社との差別化をはかり、利益につなげることも必要です」。活用できる特許を取り企業の利益につなげることで、つまり知財マネジメントが重要だと言います。

ところが、活用できるような特許出願がされていない例が多いとか。後藤研究室では、公開特許公報のデータを用いて特許明細書のページ数を調べたところ、ある特定の状況が明らかになったそうです。「特許出願の代理をする弁理士が作成した場合は、自社や個

経営学部経営学科
後藤 時政 教授(H4K)



PCでデータ作業をする後藤教授

公開特許公報のデータベース

人で作成した場合より、特許明細書のページ数が3ページほど多いのです。それはなぜか…。

中小企業でも活用できる特許出願を

出願した特許は、審査請求をすることにより審査されます。ただ、全体のほぼ8割が拒絶査定を受け、意見書の提出や明細書の補正をする必要が出てきます。「ここで、ポイントとなるのが、特許明細書に新規事項の追加はできないという点です。そのため出願時には補正の自由度を広くした明細書の作成が必要となるんです」。せっかく出願しても特許化できなければ、単に第三者にアイデアを提供するだけになってしまいます。こうしたことを防ぐには、専門家(弁理士など)の助けを得たり、社内に専門的知識のある人材が必要となってきます。しかし、中小企業では費用面から、そのような専門家の支援を受けることが難しいケースも多々あります。

後藤教授は、経営者が特許の活用に対して意識を持ち、特許明細書作成のスキルを磨くことができれば、企業の利益につなげることも可能ではないかと考えています。「大学でもそういう人材を育てるべく、準備をしているところです」。

2足歩行ロボットを学生たちと製作、 「リアルロボットバトル日本一決定戦!」参戦

工学部電気学科
古橋 秀夫 教授

鉄人がロボットバトルに出場

日本テレビ開局60周年特別番組として企画された「リアルロボットバトル日本一決定戦!」に出場した古橋研究室のチーム。書類選考を通過した計8チームのロボットが相手の緑の的にパンチを打ち、トーナメント方式で勝ち残るロボットの格闘技大会です。結果は、直前のトラブル発生により、残念ながら1回戦敗退となりました。

学生のものづくりを支援

専門は「計測」の古橋秀夫教授がロボット製作に関わるようになったのは、10年ぐらい前から。ものづくりに挑戦する学生たちを場所や費用面で大学が応援する「学生チャレンジプロジェクト」としてスタートしました。子どもの頃からロボットに興味を持ち、高校時代にはコンピュータによるロボット制御も行っていた古橋教授。センサーなどに「計測」の知識を応用できることもあり、研究室をあげて取り組んできました。昨年製作したロボットの動作確認をする学生



今までにない巨大ロボット

研究室で製作するのは、愛工大イメージキャラクターの「鉄人」。最初は30cmの小さなものでしたが、今年のバトルに出場した10代目の鉄人は高さ2m・重さ約200kgという巨大なもの。動きが鈍くならない程度に安定性のある形にし、足も制限内で大きくしました。素材は主にアルミニウムとジュラルミンを使用。「カーボンより安く、成型がしやすいですね」。画像認

識ができるように目にはカメラが付き、胴体はパラレルリンクという構造により上体が動き、なめらかに腕を突き出す動作ができるよう工夫されています。強いパンチを繰り出すことができ、スウェーバックなどの防御も可能な画期的な構造です。その反面、製作にはとても苦労したとか。

修正に修正を重ねて完成

「出場が決まった今年の1月からロボットの設計を始めたんですが、この規模のロボットですと製作期間は通常2年ぐらいなんです。実際に設計や組み立てに関わった学生も「大型で重たく、強度の設計が難しかったです」。コンピュータ画面上で組み立て、不具合をチェックしながら動作確認まで修正が続いたと言います。「設計段階では気付かない点も多く、時間のなかで6人の学生を中心に夏休みも返上して取り組み、研究室のOBなどの協力もあって何とか完成できました」。

計測の研究で実用化を目指す

専門分野である、人やものの長さ、形、距離などを



強度の計算が難しいという設計



組み立て途中のバトル参戦ロボット

測る「計測」も実用化に向け研究が進んでいます。透明な物体を計測できるレーザーを使った測定では、例えば、工業製品などで使われる無色透明の接着剤の量を測り、量が適正か調べることができる言います。

また、超音波による測定では、暗闇や霧や煙の中でも計測ができるという特徴を生かし、例えば、病院などで病人のベットからの落下を検知したり、家庭で高齢者の動きを見守るのに応用ができるとか。カメラに比べると精度が良くない分、形だけを検知するためにプライバシーが守られるという利点もあるそうです。価格的にも安いのが魅力で、実用化に向けて基本的な性能を研究している段階だと言います。

常に新しい発想を学生に求めている古橋教授の研究室は、ロボット製作の魅力もあってか、定員オーバーするほどの人気ぶり。卒業後も工作機械関係の会社で開発に携わるなど、優秀な人材を送り出しています。

被災時、インフラ復旧のカギとなる破壊度合いの判断基準作り

インフラの被災には早い対応が必要
 構造物に対して働く力と、力によって生じる変形や破壊などについて学ぶ「構造力学」を専門とする鈴木森晶教授。研究室では、主に大学内にある「耐震実験センター」で様々な実験を行っています。

鈴木教授がこの10数年取り組んでいるテーマの1つが、地震などにより構造物、とくにインフラが被災したときにいち早く使えるようにするにはどうしたらいいかというものです。被災した場合には1週間以内にインフラを復旧させることは社会的使命だと言います。「なぜなら、備蓄は1週間程度で底をついてしまいますので、少しでも早い復旧が求められるからです」。

破壊度合いの判断基準を作る

発災後、24時間以内に壊れ度合いを確認し、修復方法を検討する必要があります。72時間後には応急処置をしなければいけないと言います。方法を

決めるのに必要とされるのが、破壊度合いの判断基準です。

個人住宅の損傷やケガ人などに対する応急処置の判断基準の設定は進んでいるようですが、道路などは各管理団体が経験をもとに判断しているのが現状とか。「高速道路などは破壊の程度についての判断基準が十分整っているとは言えません。各管理団体が破壊度合いに対する判断レベルの基準を持つ必要があると考えています」と鈴木教授。

破壊に対する判断基準ができれば、例えば「コンクリートを入れる」「補強材を溶接する」など応急処置や修復方法を検討できて、より効果的に早く復旧が進められると言います。

実験によりデータ収集

「判断基準が整っていないのは、破壊に関するデータがそろっていないためです」。そこで、鈴木教授はそのデータを提供するために実験を行い、データ収集をしています。

耐震実験センターに、4分の1サイズにした高速道路を支える柱を造り、震度5~7の場合の壊れ方を想定して実験を行っています。「模型による実験が中心ですが、メリットもデメリットもあるので、なるべく実物に近いサイズで実験することに意義があると思っています。データの信憑性も高まりますから」。

高速道路の管理団体とともに、壊れたときにどこを点検すべきかについて、今年から3年かけてデータを取り、大まかな枠組み作りに取り組んでいるところだと言います。

工学部都市環境学科
鈴木 森晶 教授



高速道路を支える柱を使った実験

地震による給水槽破壊に関する研究

道路とともに地震後に必要となるのが水です。避難所となるような病院や学校などには給水槽が設置されていますが、地震により給水槽が被災を受けている例が多数報告されています。「これらの水槽は、小さな連続する揺れに反応して起こるスロッシングという現象により破壊されることがあるんです。私の研究室では、このようなスロッシング現象を抑制する対策に関する研究も行っています」。具体的にはスロッシングのエネルギーを上手く消失させるような機構を貯水槽内に組み込むことでスロッシング現象の抑制を実現。「給水槽が壊れないような対策を施すことができれば、避難所でのより迅速かつ安定的な救援活動が可能となります」。

鈴木教授が進めている高速道路の復旧や給水槽の破壊対策など、社会的な研究は、産官などと連携して行うことで、成果をあげています。



データ解析をする学生

入試 information

同窓生入試で愛工大へ!

開学50周年の記念事業の一環で始まった同窓生入試は、同窓生のご子息を対象にした入試制度です。ぜひ、ご利用ください。

詳しくは入試広報課へお問い合わせください。

スケジュール
[2013年度実績]

小論文・面接(口頭試問を含む)

工学部・経営学部・
情報科学部……………11/1

合格発表

入学手続

入学金-----12/12
指定書類・学納金等
-----1/10

※検定料35,000円

11/8

多彩な入試制度を用意しています!

★早めの合格を目指すなら、推薦入試

(スポーツ推薦) (女子学生推薦) (一般推薦)

出願は10月からスタート!

★今からでも間に合う

(一般入試) (下記日程)

1月以降の出願で受験できます。

入試日程

※出願に関して、前期日程A方式、前期日程M方式、後期日程M方式、センター3期はメチ日必着(持ち込み可)で、これ以外の入試はメチ日当日の消印有効です。

入試区分	入試の名称	出願期間	試験日	実施学部	試験会場	合格発表日	
前期日程	一般入試	1/7(火)~20(月)※	1/27(月)	全学部	本学(八草)、本学(自由ヶ丘)、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山	2/8(土)	
	前期日程 M方式(マークセンス式)		1/28(火)		本学(八草)、本学(自由ヶ丘)、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、岡山、松本、福岡		
	センター試験利用入試		1/29(水)		本学が課す試験はありません。		
後期日程	一般入試	2/3(月)~24(月)※	3/3(月)	全学部	本学(八草)、岐阜、四日市、津、浜松	3/8(土)	
	センター2期C方式(2教科利用)		2/25(火)~3/7(金)※		本学が課す試験はありません。		3/18(火)
	センター3期C方式(3教科利用)						

オープンキャンパス開催!



2013年度のオープンキャンパスが7月27日(土)、28日(日)に八草キャンパスと自由ヶ丘キャンパスで開催され、多くの受験生や保護者が訪れました。

学科・専攻ごとに趣向を凝らしたデモンストレーションでは大学の学びを体感し、入試説明会や保護者説明会等では熱心に耳を傾ける姿がみられました。

秋のオープンキャンパスは10月12日(土)に八草キャンパスで大学祭と同時に開かれ、親子連れの方も多く見られました。

入試に関するお問い合わせ

愛知工業大学・入試センター TEL 0120-188-651 (入試広報課) FAX 0565-48-0024 e-mail nyushi@aitech.ac.jp

就職 information

同窓生が所属している企業を主とした企業展、「瑞若会企業展」にご参加ください

瑞若会(愛知工業大学同窓会)では、在学生への就職支援の一環として、学内企業展を開催しています。2013年(平成25年)度は5月18日(土)に開催し、同窓生が所属している企業を中心に90社と、371名の学生の参加がありました。

【2014年(平成26年)度開催のお知らせ】

2014年度も5月頃に「瑞若会企業展2014」を開催する予定です。参加希望の企業様は、2014年3月末までに、E-mailまたはFAXにてキャリアセンターへご連絡ください。キャリアセンターより詳細のご案内をさせていただきます。

※応募多数の場合は、ご参加いただけない場合もございますので予めご了承ください。

卒業生向けの求人検索サービスのご案内

卒業生の方々が、「既卒者可」の求人が検索できるサービスを実施しています。右記のアドレスから登録していただきご利用ください。

既卒者求人検索

www.aitsyusyoku.com/

インターンシップ制度について

キャリアセンターでは、各専攻の担当教員と連携をし、就職指導・支援を行っています。インターンシップ制度を活用した職場体験もすすめておりますので、学生受け入れにご協力いただける企業様は、キャリアセンターまでご連絡ください。

Web求人登録システム

Webから求人登録もできます。ご利用ください。

URL <http://www.kyujin-navi.com/uketsuke/>

就職に関するお問い合わせ

愛知工業大学・キャリアセンター TEL 0565-48-4655 (直) FAX 0565-48-6140 e-mail syusyoku@aitech.ac.jp

退職教員紹介

退職教員の先生による最終講義を大勢の方が聴講!

2013年3月末の退職を前に、2月22日に工学部応用化学科 稲垣慎二教授(40C)、3月9日に工学部都市環境学科 青木徹彦教授と四俣正俊教授により、最後の講義が行われました。懐かしい写真とともに自らの研究や教員生活のできごとなどにもふれつつ、それぞれの思いを語った講義には、在校生や先生方はもとより、卒業生もかっつけて熱心に耳を傾けていました。



稲垣 慎二 教授

「愛知工業大学での52年を振り返って」と題して、自らの学生時代の話や古タイヤゴムの化学再生など研究について講義をした稲垣教授



四俣 正俊 教授

「私の教育哲学—限りなく雑談に近い講義—」と題し、大学教員になったいきさつや、海外での学会のことなどを語った四俣教授の講義



青木 徹彦 教授

「学究生活を振り返って」に始まり、「構造力学教育のはなし」や、尽力をした「耐震実験センターのはなし」などについて講義をした青木教授

退職教員に聞きました! (敬称略)

Q 愛工大で印象に残るできごとは?

- 企業から大学へ移りましたので、最初はかなりカルチャーショックを感じました。社会へ出てからのことを考えて、3年生の専門科目、4年生の卒業研究では、厳しく指導しました。卒業生がよく研究室を訪ねて来てくれること、そして厳しい指導が役に立っていると言われると、嬉しく思います。(植田)
- 長い期間考えていた電気化学的現象を結び付けた腐食疲労実験で、小型モーターの入力源として用いられているリン青銅端子を見つけて実験が可能になり、結果を学会に報告したこと。ほかには1981年(昭和56年)卒業の岩永研4年生と夏、車4台で野宿しながら能登半島を旅行したことも思い出に残っています。(岩永)
- 当時、全国の大学でも導入が珍しい「石川播磨製のIGT60型 ガスタービン」が本学に設置されていました。しかし、運転されずに放置されていたのを学生諸君と整備と思考を繰り返し駆動できたことです。(林)
- 耐震実験センター設立と運営に携わったことがいちばん印象的なできごとです。(青木)
- 大学からメキシコへ派遣された1年間(1981年~)は印象深いですね。(四俣)
- 学生と『築城せよ!』の映画を作ったことですね。研究では、鉄筋の溶接接合の開発を行い、その分野で日本の市場シェアNo.1となったことかな。(尾形)
- 顧問をしていた硬式野球部が神宮に出場して

勝ったとき。それから、学生が初めて博士号を取得をしたときです。(中川)

- かつてII部を教えていた頃、中年の学生(私より年上!)が、「講義は楽しかった。自分が作ったものです。どうぞ」と言って新米をくれました。(服部)
- 国際会議に出席し、研究室の学生が最優秀ポスター賞を受賞したことです。(渡邊)

Q 愛工大キャンパス内で思い出深い場所やモノは?

- 愛環の八草駅から愛工大までの道のりです。自然が豊かな中を、暑いときも寒いときも、四季の移り変わりを感じながら歩きました。(植田)
- 第1回駅伝大会において教職員の部で優勝したときの駅伝コースが心に残っています。(岩永)
- 硬式野球部ですね。1996年(平成8年)に硬式野球部長に就任し、前年度まで2部リーグに低迷していたチームを春季大会(愛知大学野球連盟)で優勝させ、大学選手権(神宮大会)へ出場できたので。(林)
- やはり耐震実験センターが思い出の場所です。(青木)
- キャンパスの裏にある猿投山へは学生たちや犬を連れてよく行きました。(四俣)
- 周辺の里山です。よく散歩をしました。(尾形)
- 硬式野球部の顧問をしていたので、野球部のグラウンドです。(中川)
- キャンパス内ではないですが、その周りの(まだ名が売れてなかった頃の)海上の森です。(服部)
- 紅葉のキャンパスです。(渡邊)

2013年3月に退職された教員



植田 明照 教授
1994年~



稲垣 慎二 教授
1965年~



岩永 弘之 教授
1969年~



林 二一 教授
1968年~



青木 徹彦 教授
1974年~



四俣 正俊 教授
1975年~



尾形 素臣 教授
1976年~



坪井 常世 教授
1977年~



中川 暉夫 教授
1988年~



服部 忠一郎 教授
1970年~



渡邊 藤雄 教授
2006年~

凡例: ●本部事業 ■学内事業 ◆支部事業 ▲その他

◆ 事業報告 (平成25年1月1日~平成25年12月31日) ◆

月	本部の会議	各種行事
1月		■「みずわか」編集委員会開催(1/30)
2月	第4回総務常任委員会開催(2/28)	▲私立大学同窓会連合会拡大事務局長会議(2/15) ◆応化会 稲垣先生退職記念行事(2/22)
3月		■「みずわか」編集委員会開催(3/5) ■「みずわか」編集委員会開催(3/11) ■平成24年度 卒業式「瑞若賞」贈呈(3/23) 卒業生に記念品配布(3/23)
4月		■平成25年度入学式(4/2) ■新入生に「START-UP」配布 ■「みずわか」編集委員会開催(4/23)
5月	瑞若会奨学金委員会開催(5/17) 第1回総務常任委員会開催(5/17)	●瑞若会(同窓会)企業展(5/18) ■「みずわか」編集委員会開催(5/29)
6月	第2回総務常任委員会開催(6/13) ●瑞若会理事会・支部長会議開催(6/22)	■新会員のデータ入力(6/28) ■新会員の同窓会費入金処理(6/28)
7月	第3回総務常任委員会開催(7/25)	▲愛知県私立大学同窓会連合会平成25年度理事会・総会(7/3) [名古屋観光ホテル] ◆職場支部「近藤グループ懇親会」(7/26)
8月		
9月		▲北陸AITオープンフォーラム(9/14) [金沢都ホテル] ▲岐阜AITオープンフォーラム(9/21) [岐阜グランドホテル] ▲中・四国AITオープンフォーラム(9/28) [岡山ロイヤルホテル]
10月	第4回総務常任委員会開催(10/31)	▲静岡AITオープンフォーラム(10/5) [ホテルクラウンレス浜松] ■愛工大祭開催への援助(10/12~10/13) ■工科展(10/12)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 ▲愛知県私立大学同窓会連合会拡大事務局長会議(10/23) ▲三重AITオープンフォーラム(10/26) [四日市都ホテル]
11月		▲長野AITオープンフォーラム(11/3) [ホテルエナピスタ] ■駅伝大会(11/5)「瑞若会(同窓会)特別賞」贈呈 ◆関西支部 中・四国支部「合同意見交換会」[鳥取](11/23~24) ◆応化会「OB講演会」[本山キャンパス](11/30)
12月		●「みずわか vol.46」会員へ郵送

◆ 平成24年度 決算書(収支計算書) ◆

経常経費 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)				
科目	予算額	決算額	差額	備考
収入の部				
入会金(基本金)	4,400,000	4,398,000	△ 2,000	
終身会費	22,000,000	21,980,000	△ 20,000	
年会費	0	0	0	
受取利息	200,000	148,085	△ 51,915	
雑収入	0	6,000	6,000	
当期収入合計①	26,600,000	26,532,085	△ 67,915	
前期繰越金②	27,925,399	27,925,399	0	
収入の部合計①+②	54,525,399	54,457,484	△ 67,915	
支出の部				
学科・支部援助費	3,000,000	4,251,022	1,251,022	
名簿管理・IT関連費	1,500,000	1,229,540	△ 270,460	
会報発行費	7,500,000	7,096,395	△ 403,605	
大学祭援助費	600,000	600,000	0	
卒業記念品費	2,500,000	2,512,150	12,150	
準会員支援費	2,000,000	1,849,505	△ 150,495	
[小計]	17,100,000	17,538,612	438,612	
人件費	3,000,000	2,870,413	△ 129,587	
消耗品費	500,000	420,323	△ 79,677	
会議費	800,000	1,321,823	521,823	
慶弔費	100,000	266,320	166,320	
私大同窓会連合会	150,000	102,000	△ 48,000	
雑費・手数料	150,000	252,616	102,616	
[小計]	4,700,000	5,233,495	533,495	
予備費	400,000	0	△ 400,000	
基本積立金へ	4,400,000	4,398,000	△ 2,000	入会金
当期支出合計③	26,600,000	27,170,107	570,107	
当期収支差額④(①-③)	0	368,022	△ 638,022	
50周年準備費へ⑤	4,000,000	3,268,222	△ 731,778	
次期繰越金⑥(②+④-⑤)	23,925,399	24,019,155	93,756	
支出の部合計③+⑤+⑥	54,525,399	54,457,484	△ 67,915	

基本積立金 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

科目	予算額	決算額	差異	備考
収入の部				
経常経費から繰入	4,400,000	4,398,000	△ 2,000	入会金
前期繰越金	196,760,087	196,760,087	0	
収入の部合計	201,160,087	201,158,087	△ 2,000	
支出の部				
次期繰越金	201,160,087	201,158,087	△ 2,000	
支出の部合計	201,160,087	201,158,087	△ 2,000	

50周年準備費 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

科目	予算額	決算額	差異	備考
収入の部				
参加費	2,500,000	3,566,000	1,066,000	
祝儀	0	560,000	560,000	
経常経費から繰入	4,000,000	3,268,222	△ 731,778	
前期繰越金	22,817,526	22,817,526	0	
収入の部合計	29,317,526	30,211,748	894,222	
支出の部				
印刷費	300,000	276,150	△ 23,850	
郵送費	3,000,000	2,940,612	△ 59,388	
総会・パーティー費	17,000,000	16,850,334	△ 149,666	
講演・演奏費	2,600,000	2,734,179	134,179	
記念品・記念誌作成費	5,000,000	6,418,650	1,418,650	
消耗品・事務費他	1,417,526	991,823	△ 425,703	
次期繰越金	0	0	0	
支出の部合計	29,317,526	30,211,748	894,222	

科目	予算額	決算額	差異	備考
収入の部				
参加費	2,500,000	3,566,000	1,066,000	
祝儀	0	560,000	560,000	
経常経費から繰入	4,000,000	3,268,222	△ 731,778	
前期繰越金	22,817,526	22,817,526	0	
収入の部合計	29,317,526	30,211,748	894,222	
支出の部				
印刷費	300,000	276,150	△ 23,850	
郵送費	3,000,000	2,940,612	△ 59,388	
総会・パーティー費	17,000,000	16,850,334	△ 149,666	
講演・演奏費	2,600,000	2,734,179	134,179	
記念品・記念誌作成費	5,000,000	6,418,650	1,418,650	
消耗品・事務費他	1,417,526	991,823	△ 425,703	
次期繰越金	0	0	0	
支出の部合計	29,317,526	30,211,748	894,222	

年	電工学科	電子学科	情報通信学科	応用化学科	機械工学科	土木工学科	川内 義郎	佐藤 春	玉木 さおり	溝渕 征夫	堀田 恒雄	加藤 繁	村小 公一	小石 雅敏
1975	浅野 和彦						1986	川内 義郎						
1964	原田 昭男						1987	佐藤 春						
1975	伊藤 憲一						2001	玉木 さおり						
1994	松井 俊一						1970	溝渕 征夫						
1972	加藤 厚						1973	堀田 恒雄						
1972	三輪 静						1977	加藤 繁						
1974	小倉 活						1982	村小 公一						
1978	大山 忍						2005	小石 雅敏						

竹田昌治氏(42E)旭日双光章受賞



竹田氏を囲んで

静岡県支部の竹田昌治氏が、2013年春の叙勲で不動産業振興功労により「旭日双光章」を受賞されました。浜松商工会議所不動産部会会長や(社)静岡県宅地建物取引業協会副会長を務めるなど長年にわたり、不動産業界において尽力した竹田氏をたたえ、9月28日にお祝いの会が開かれました。宅建協会本部をはじめとした不動産関係の方々や恩師・友人ら150人近い人が集まり、受賞を祝いました。瑞若会本部

「瑞若会特別賞」授与

在校生に瑞若会へ関心を持ってもらうことも視野に入れ、2010年から始まった「瑞若会特別賞」の授与。今年「工科展」(10月12日開催)では「システム工学研究会」に、駅伝大会(11月5日開催)では、「安定のIIDA TOMOKI」(所属・硬式野球部)、「自動車研究室B」(所属・自動車研究室)、「全力失踪」(所属・庶務課)の各チームに賞を贈りました。

同窓生には
特典あり!

「オープンカレッジ」に 参加してみませんか

パソコン講座の様子

愛工大の本山キャンパスと自由ヶ丘キャンパスで開催される「オープンカレッジ」。

同窓生が講座に参加する場合は、1講座当たり参加費の半額(1人当たり上限を3,000円とする)を補助します。希望者は所定の申込書*に必要事項をご記入の上、本山キャンパス事務室へご提出ください。

このように本山キャンパスの施設を利用し、活動する方々への支援は、同窓生(瑞若会会員)の有志から寄付された株券による『株券寄付基金』の配当金により行っておりますので、皆さんもぜひ、ご利用ください。

*申込書:同窓会ホームページに掲載されている『様式7』になります。

プリントアウトできない場合は、同窓会事務局へ用紙をご請求ください。



美頭 甲子雄さん(45E)

オープンカレッジについては、チラシなどを通して知っており、かつて子ども向け講座に孫たちと参加しました。受講時の優遇制度も先輩から聞いておりましたので、今回は「日本の伝統行事と開運・厄落としの知恵」と「パソコン講座(中級)」を受講しました。どちらのキャンパスも地下鉄駅からすぐで、自宅からのアクセスが便利なのも魅力です。また、自由ヶ丘キャンパスの1階ラウンジには雑誌なども置いてあり、早めに着いても退屈しなくていいですね。



愛知工業大学の フェイスブックができました!

フェイスブックでは、学内イベントや研究室の様子などの情報を掲載しています。ぜひ、チェックし、「いいね!」を押して応援しましょう。

<https://ja-jp.facebook.com/aikoudai>

海外でご活躍の同窓生の皆さん ぜひ、ご協力を!

会報誌『みずわか』の次年度特集記事は、海外赴任や海外出張経験のあるOBの方々をご紹介します。今までの経験から困ったこと、注意すべきことなど写真をそえてお送りください。採用の方にはもちろん記念品をお送りします。詳細につきましては同封の別紙をご参照ください。

愛工大生、再び映画制作に挑む!

2014年2月公開「A.F.O」

名古屋電気学園創立100周年の記念事業の1つとして映画を制作。大学としては愛工大開学50周年記念の『築城せよ!』(古波津陽監督・2009年6月公開)に続き、2作目となります。

監督は『20世紀少年』などで知られ、愛工大の客員教授でもある堤幸彦氏。学生がリアルなものづくりを体験できる場を提供するという目的もあり、制作スタッフや出演者の一部を学内から公募し、主演の石田卓也さん、岡本あずささんやプロのスタッフの皆さんとともに、映画制作を行いました。

タイトルの「A.F.O」は、皆が1人のためにという「All For One」の頭文字からとっており、ブラジルからの留学生をとりまくサッカーにまつわる話になっています。八草キャンパスを中心に夏から撮影に入り、9月13日にクランクアップ。2月に劇場で公開予定です。

同窓生の皆さんもぜひ、ご覧ください。



OB掲示板・がんばるOBへのご参加について

会報誌『みずわか』では、各支部や学科、クラブ、個人の情報発信、近況報告の場として、誌面の活用を進めています。次年度、誌面へご参加いただける方は、ぜひとも情報をお寄せください。(本誌3~8ページをご参照ください)

愛知工業大学同窓会支部結成のために 必要とされる手続き

1. 支部結成発起人(氏名、卒業年、学科)
 2. 支部同窓生氏名(氏名、卒業年、連絡先等)
 3. 支部則原案(見本を作成していますので、参考にしてください)
 4. 支部本部となる連絡場所…連絡先、住所、電話番号記入
 5. 正式に支部として承認されましたら、支部則に基づき支部長、副支部長、会計その他の役員を本部に届ける
- *職場支部結成については、10名以上の同窓生が在籍していること

会員の皆様へ

ご住所や勤務先などの変更等がありましたらお知らせください。また、地域での同窓会活動の状況など皆様からの情報や、同窓会および会報誌『みずわか』に対するご意見も、お待ちしております。

※下記のメールまたはFAXでご連絡ください。

同窓会・会報誌『みずわか』に関するお問い合わせ、申し込み、ご連絡は **愛知工業大学同窓会事務局** まで

郵 送

〒470-0392 豊田市八草町八千草1247

TEL
FAX

TEL 0565-43-1032
月~金 9:00~16:30
FAX 0565-43-1031

e-mail

mizuwaka@aitech.ac.jp

※ご登録いただいた個人情報は同窓会に関する案内および大学から依頼された案内の発送のみに使わせていただき、本人の承諾なく第三者に開示することはありません。なお、個人情報の取扱いについては、HPに明記した瑞若会個人情報保護ポリシーに準じます。

愛知工業大学同窓会誌(瑞若会会報) **MIZUWAKA** (みずわか)

発行日 2013年12月
発行 愛知工業大学同窓会
〒470-0392 豊田市八草町八千草1247
Tel.0565-43-1032 Fax.0565-43-1031
発行責任者 岩月 栄治

編集 MIZUWAKA Vol.46 編集委員会
鮎澤 智美、北川 一敬(チーフ)、葛谷 新一郎、
倉橋 有希、後藤 時政、立枕 孝之、津田 紀生、
西 裕之、橋本 知佳、前田 賢、
山田 千代美(事務局)

印刷 株式会社 大東社
〒494-0003 一宮市三条字大平27
Tel.0586-62-1168 Fax.0586-62-1751
制作 アクア・ビット

<http://www.ait.ac.jp/>